

心理支援専門職とその関連組織に対する大学生の意識

ー学協会等のホームページ閲覧を通してー

森田 美弥子^{*1}

要 旨

大学生は、心理支援専門職に対してどのような認識をもっているのだろうか？ 筆者は、2020年および2021年に、大学1年生および3年生を対象として調査を実施した。公認心理師や臨床心理士の職能団体、養成機関の連合組織、関連学会等、8つの心理支援専門職関連組織のホームページの中から1つ以上を閲覧して、短い感想を自由記述することを求めた。2年間で計276名から得られた自由記述回答を内容別に分類したところ、ホームページの外観、組織の活動、心理支援専門職の役割、の3カテゴリに大別された。大学生にとって、各ホームページはわかりやすく、デザインも魅力的であること、資格取得は難しいが、心理支援の職域は多様で現代社会において重要であると認識されたことが示された。

キーワード

大学生、心理支援専門職、ホームページ

1 問題と目的

2017年に公認心理師法が施行され、2018年には国家資格としての心理支援専門職が誕生した。同年、全国の多くの大学・大学院で公認心理師のためのカリキュラムが導入され、養成教育が開始されたが、当初は、臨床心理士をはじめとして、それまで心理支援の仕事に携わってきた多様な専門家が、現任研修を受けるなどして国家試験を受験した。初年度の資格取得者は、27,876名であった。数年経過した現在は、現任者の受験受け入れは終了し、公認心理師カリキュラムを学んだ者が主たる受験生となっている。2023年3月時点での公認心理師資格取得者は69,875名に及んでいる。その多くを占めているのは、臨床心理士であるが、学校心理士、発達臨床心理士、産業カウンセラー、その他、心理支援を行っていた教員、看護師、社会保健福祉士なども含まれる。

公認心理師資格取得のためには、学部・大学院それぞれで演習・実習を含む所定の科目を履修する必要がある。学部卒業後、認定された支援機関で数年間勤務することでも受験資格は得られるが、現在認定されている機関は鑑別所等の国の矯正施設と数カ所の病院等の民間施設に限られる。また様々な支援領域で実践できる専門職となるための基礎を身につけるうえでは大学院での専門教育が必須と言える。中部大学人文学部

心理学科では、大学院における養成課程を設置することはできなかったが、学部において公認心理師対応科目を2018年度より開講した。所定の科目をおさめた学生は、他大学の養成大学院に進学して、公認心理師に加えて多くは臨床心理士も合わせて資格取得を目指している。

著者は担当授業の中で、心理支援専門職に関連するいくつかの組織のホームページを学生に提示したところ、“初めて知ったこともあり参考になった”、“わかりやすいページで一般向けの活動もある”、“資格の重みを感じた”等、多様な興味深い意見が得られた。感想の中には“(年次) 大会って何を競い合うのだろう”等の誤解も含まれていた。現代の若者にとってインターネット利用に対する関心は高く、進学先など進路選択のための情報収集や入学後の学習における文献や資料検索等で欠かせないツールとなっている。活字離れが懸念される一方で、ネットならではの利便性もある。

これまで、大学生を対象としたカウンセリングや相談機関についてのイメージ調査を行った研究は多数ある。たとえば、森田（1997）は、大学生約1,000名に学生相談室イメージの自由記述回答を求め、接近・敬遠・消極・保留に4分類し、その後の実際の来談との関連を報告した。また、緒賀（2004）は臨床心理学関連の授業において初期と終期の2回、坂本・千島

^{*1} 人文学部 心理学科 特任教授

(2018)は、教職課程の大学生を対象として2004年と2015年に、それぞれカウンセリング・イメージについての質問紙調査を実施し、いずれも肯定的なイメージが高まったとの結果を得ている。しかし、これまでの多くの研究は、支援機関の利用に関する意識とも合わせて尋ねており、将来自分がカウンセリング支援を受けるかもしれない立場を前提とした内容になっていた。支援者側になるかもしれない立場にアプローチした研究は見当たらない。

そこで本報告では、将来の進路として心理支援専門職を視野においている学生を対象として、ホームページ閲覧を通して大学生が心理支援専門職とその関連組織に対してどのような認識や関心を抱いているのかをとらえ、さらなる学びとして何を提供することが必要か検討することを目的とする。心理支援専門職をめぐる学生の意識を知り、公認心理師養成教育に役立てたいと考える。

2 方法

対象：2020年度と21年度に心理学科の入門講義「スタートアップ・セミナー」を受講した学部1年生（計160名）、及び「公認心理師の職責」を受講した3年生（計116名）。

手続き：それぞれオムニバス形式の授業の中で、心理支援専門職（臨床心理士・公認心理師）の成り立ちや役割等について説明した回に、関連する8つの学協会等のホームページ URLを紹介し、1つ以上を閲覧してその感想を簡単に述べよ、という課題を出した。具体的には、「どのHPを閲覧したか?」「閲覧して心理専門職やその関連組織についてどのようなことを感

じたか?」（文字数は厳密に指定せず、最低数行でよい）と質問した。提出された記述内容を今回の検討データとする。なお、2020年度はコロナ禍のため遠隔授業で実施された。

8つの学協会の概要を表1に示す。公認心理師および臨床心理士に関連する組織は他にもあるが、規模と歴史を考慮してこの8組織を選んだ。

国家資格としてスタートした公認心理師に関わるものとして、「①日本公認心理師協会（以下、師協会と略称）」は有資格者の職能団体、「②日本公認心理師養成機関連盟（以下、公養連）」は養成する大学等の団体、「③日本心理研修センター（以下、研修セ）」は資格試験等の実施組織、「④厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課公認心理師制度推進室（以下、厚労省）」は制度や法律等を司る行政組織である。

これまで心理支援専門職として中心的存在であった臨床心理士に関わるものとして、「⑤日本臨床心理士会（以下、臨士会）」は有資格者の職能団体、「⑥日本臨床心理士養成大学院協議会（以下、臨大協）」は養成する大学院の団体、「⑦日本臨床心理士資格認定協会（以下、認定協会）」は資格試験等を実施する組織、「⑧日本心理臨床学会（以下、日心臨）」は臨床心理士の制度をたちあげる母体となった学会である。

分析方法：全員の記述内容をKJ法に準じて分類し、学生が各ホームページのこういったところに注目し、どのような感想を抱いたかをまとめ、閲覧した組織ごとの特徴や学年による着目点の違いがあるかどうかを検討する。

倫理的配慮：感想提出は出欠確認と今後の授業内容

表1 ホームページを閲覧した8組織

組織名称	概要
①師協会 https://www.jacpp.or.jp 公益社団法人) 日本公認心理師協会	公認心理師有資格者の職能団体。2014年に一般社団法人として設立。2023年4月より公益法人化。
②公養連 https://kouyouren.jp 一般社団法人) 日本公認心理師養成機関連盟	公認心理師を養成する、大学、大学院及び実務経験を行う施設等の機関によって構成。2019年4月に設立。
③研修セ https://www.jccpp.or.jp 一般財団法人) 日本心理研修センター	2013年に設立。2016年4月より、文部科学大臣・厚生労働大臣に認可された指定試験機関。2017年11月より指定登録機関。
④厚労省 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課公認心理師制度推進室	公認心理師法および関連した通達等が掲載された解説ページ。 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html
⑤臨士会 https://www.jsccp.jp 一般社団法人) 日本臨床心理士会	臨床心理士有資格者の職能団体。 1989年に設立。2009年より法人化。
⑥臨大協 https://www.jagpcp.jp 日本臨床心理士養成大学院協議会	臨床心理士を養成する大学院によって構成。 2001年に設立。
⑦認定協会 https://fjcbcp.or.jp 公益財団法人) 日本臨床心理士資格認定協会	臨床心理士の資格審査、養成指定大学院の認定審査等を行う。 1988年に設立、2年後に法人化、2013年に公益財団法人化。
⑧日心臨 https://www.ajcp.info 一般社団法人) 日本心理臨床学会	心理学または隣接諸科学を専攻した者、心理臨床経験を有する者等が入会条件。1982年に設立。2009年より一般社団法人化。

の参考にするためであること、加えて大学生の意識傾向としてまとめて研究発表する可能性もあること、したがって記述内容の良否は成績に影響しないこと、研究使用に同意できない場合はその旨書き添えてほしいこと、以上を口頭で伝えた。不同意の表明はなかった。なお、本研究は、中部大学倫理審査委員会において承認された（承認番号20230026）。

3 結果および考察

3.1 閲覧状況

「8組織のうち、どのHPを閲覧したか？」という質問に対し、1組織のみと回答した者が177名、2カ所以上と回答した者が96名、不明（記載なし）3名であった。

組織別の閲覧人数を年度および学年別に図1に示した。①師協会が180名（単独閲覧97名、複数閲覧83名）と最も多く、いずれの授業でも約6割前後を占めていた。次いで⑤臨士会66名、③研修セ47名、⑧日心臨46名、④厚労省40名、②公養連32名、⑦認定協会30名、⑥臨大協15名となっており、④②⑦⑥については単独での閲覧は少なかった。複数組織のHPを閲覧した96名において、組み合わせは様々で、①⑤が17名、①④11名、①③8名、①～⑧すべて7名、①②5名、①②③4名、その他は1～2名ずつであった。

①師協会を含む閲覧が圧倒的に多かったのは、本学が学部科目として公認心理師のみに対応しているためだと考えられる。しかし、公認心理師関連組織（①～④）と臨床心理士関連組織（⑤～⑧）とにまたがって閲覧している受講生も少なくない。

3.2 記述内容の分類

「HPを閲覧して何を感じたか？」という質問に対する276名の自由記述回答には、50字程度のもの、800～1000字くらいのものが、それぞれ数名あったが、ほとんどの学生が概ね150～250字で記述していた。

複数組織を閲覧している場合、各組織についての感想を並列的に記述しているもの、複数をまとめて記述しているもの、複数閲覧はしていても一部の組織についてのみ記述しているものがあり、それらを区別して合計した記述数は357となった。これらを通読し、KJ法に準じて分類を行ったところ、以下の4カテゴリが抽出された。

1)「ホームページ外観」(38記述)：ホームページのデザイン・レイアウトの見やすさや、情報量・説明のわかりやすさ等についての印象。

2)「当該組織の活動」(165記述)：組織設立の趣旨や経緯・入会制度等の仕組みや、社会貢献・会員育成等の事業について知識を得たという感想。

3)「心理支援専門職の役割」(140記述)：多様な職域、職務の重要性、資格取得の難しさに関心の高まりについての再認識。

4)「その他」(14記述)：主に、記載なし（複数組織を閲覧しているが、その一部のみ記述）。

4カテゴリの出現数を、学年および年度の異なる4授業ごとに集計したものを表2に示した。「その他」を除く3カテゴリについてカイ二乗検定を行ったところ、有意な関連が見られた（ $\chi^2(6)=48.948, p<.01$ ）。残差分析の結果、20年度1年生では「組織の活動」が有意に少なく、「心理支援専門職の役割」が有意に多い（ $p<.05$ ）、21年度1年生と3年生では「組織の活動」が

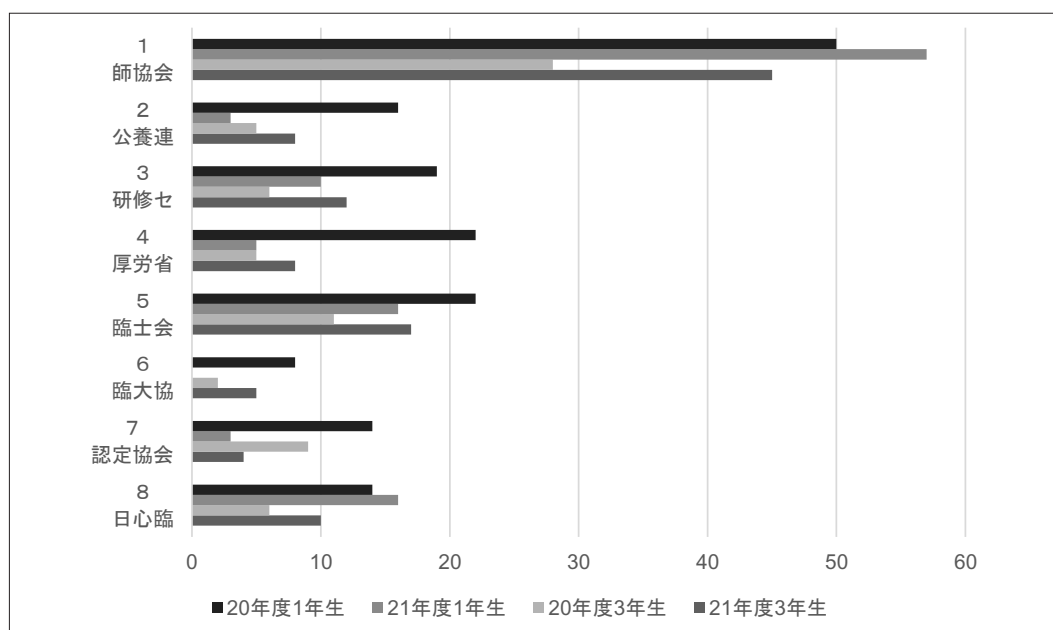


図1 組織別閲覧数

表2 記述内容カテゴリの年度・学年別集計 (χ^2 検定結果)

	人数 計	カテゴリ別記述数				記述数 計
		HP外観	組織の活動	心理支援専門職の役割	その他	
20年度1年生	74 名	6	23 ▼	62 △	7	98
21年度1年生	86 名	10	66 △	31 ▼	3	110
20年度3年生	51 名	8	30	30	1	69
21年度3年生	65 名	14 △	46 △	17 ▼	3	80
合計	276 名	38	165	140	14	357

(△有意に多い ▼有意に少ない $p<.05$) (「その他」を除外して分析)

有意に多く、「心理支援専門職の役割」が有意に少ない ($p<.05$)、21年度3年生では「HP外観」についても有意に多い ($p<.05$)、という結果が得られた。総じて内容分類と学年との関連はなく、開講年度との関連が強いと言える。

3.3 各カテゴリの具体的内容特徴

大学生が心理支援専門職関連組織のホームページを閲覧した感想（自由記述）について、分類カテゴリのうち「その他」を除く3カテゴリの具体例を表3に示した。

なお、自由記述において、「臨床心理士協会」「公認心理士会」といった名称の誤記などが目立ち、特に複数組織を閲覧している場合いずれに対する感想なのか不明な場合が散見されたため、組織別に記述内容を数値的に整理するのは困難と判断された。そこで、学生自身の記述の中で公認心理師と臨床心理士の比較などが明記されていない限り、心理支援専門職全般に対する感想として見ていくこととした。

各カテゴリの記述内容の特徴を以下にまとめる。

1) ホームページ外観について

38名が外観についての感想を記述していた。「見やすい」「美しい」「わかりやすい」「丁寧に説明されている」など好印象が多く述べられていた。一般の人に

アピールするかどうか疑問という意見も2、3名あったが、全体としては様々な立場の人にわかりやすいページであると感じられている。

2) 組織の活動について

185名が該当した。各ホームページのトップページに掲載されている当該組織の趣旨概要や設立経緯の説明文をほぼそのまま引用している傾向はあるが、心の健康支援や知識普及に関する政策提言や啓発活動、地域連携など社会的な活動も幅広く行われていることを「初めて知り驚いた」「すばらしいと感心した」という感想として述べられていた。特に、一般向けの講演等の企画、会員の資質向上・キャリアアップ・生涯学習のための研修に注目しているものは多かった。

3) 心理支援専門職の役割について

140名が該当する感想を述べていた。ここでも「多様な活動をしているとわかった」という内容が目立った。スクールカウンセラーや病院の心理支援専門職については知っているが、福祉・司法矯正・産業といった職場、子育て支援・高齢者支援・被害者支援などについてはこれまであまり認識されていなかったようである。現代社会において心の問題も多様であるため、心理支援専門職が必要とされていると、重要性が再認識されていた。

心理支援専門職につきたいという学生は、あらため

表3 自由記述の具体例

カテゴリ	記述例
HP外観	「簡単に要点をまとめられているため、知りたい情報をすぐに理解することができた。また、詳しくまとめられているページも設けてあり、深く学びたい人にも軽く興味がある人にも対応しているページだと思った。」(1年) 「美しいホームページでわかりやすかった。心理職ってなんだろうと参考に覗きにきた小中生などに対して職に興味を持ってもらえるようなページが見られなかったのが残念に思えた。」(3年) 「草木や空などの自然をイメージさせるような背景のものが多く感じた。このことは、少しでもホームページを見た人が心理職に対して、親しみを持てるようにされた工夫の一つなのではと考えた。」(3年) 「関係の薄い人にとっては非常に専門的かつ事務的で、このサイトを見て新たに関心を持ってくれる人はあまりいないように感じた。関係者にとっては情報の宝庫で非常に重宝するだろうと思った。」(3年) 「なるためのプロセスを分かりやすく説明していたり、多種多様な情報があったので細かく見れば心理職の世界を知ることができると思った。」(3年)

心理支援専門職とその関連組織に対する大学生の意識

カテゴリ	記述例
組織の活動	「公認心理師が誕生したのが2018年9月と、とても最近なことに驚いた。」(1年) 「資格認定が開始された年からの30年ほどしか経過していないということを再確認した。支援の対象が幅広いがそれぞれの分野に合わせた支援が確立されているので、今後停滞せずに更なる発展を目指すために様々な知見や経験を積んだ若い世代が最も必要な職だと感じる。」(3年) 「公認心理師はできたばかりの国家資格であるため、様々な分野においての活躍を期待されている。また臨床心理士を地盤とした信頼をさらに向上させるとともに、他職種との連携を重視していることがわかった。そのほかには委員会の種類が豊富で驚いた。」(3年) 「様々な分野で社会貢献活動や心理支援などを行っていることが分かり、自分には縁のないものだと思っていたが、我々の生活に接している・関わりを持っているように感じた。」(1年) 「心理支援に多くの種類があるように、組織もそれぞれの支援に対する分野に組織が分かれていることを知り驚いた。ある一つの分野に特化してしまうことは、支援の幅を狭めてしまうことや多職種連携においてその分野以外のことが対応できなくなるので全体的に習得することが良いことだと学んだ。」(3年) 「新型コロナこころの健康相談電話や心理的なガイドラインを掲載していて、対応がしっかりなされているのが素晴らしいなと感じた。」(1年) 「福祉に力を入れていて、思っていたよりも、ボランティア活動のようなことをたくさんしていて意外だと感じた。人を支えるのには初歩的なことからやるのが大事なのかなと考えさせられた。」(1年) 「心理職が市民に向けての活動が重要であること、また市民が臨床的知識を身に付けることが大切であることがわかった。」(3年) 「研究活動を行うことは、専門性を高めるために行われていることがわかった。質の向上を高めるためにいくつも研修が行われているんだなと思った。」(3年) 「心理職同士のコミュニティが広がることで、いろいろな立場で働く方々と意見交換をできる場なのだろうと感じた。」(1年) 「有資格者への教育・研修を行い時代の変化に応じて知識や技能の向上を図り、様々な事業をしていることがわかった。」(3年) 「会員のスキルアップ、キャリアアップ支援と福祉の向上というのがとてもいいなと思った。これによって少しでも質の良いものをクライアントに届けられるといいなと思った。」(3年) 「講座や研修会等のお知らせがページの目立つところに配置されており、自己研鑽の機会を積極的に提供しようとしていると感じた。」(3年) 「資格を有する人が仕事をしていく上でのサポートもしっかりあるのだと分かった。」(3年) 「自分自身で技術を高めることももちろん大切だが、心理職としての先輩などからその経験などを教えてもらうこともとても重要なことなのだなと感じた。またこうした組織があることによって自分が心理職の一員なんだという意識向上の効果や孤独感などが薄れるなどの効果があるため、こうした組織の重要性を改めて感じた。」(3年) 「公認心理師に関する法令等も載っており、人を支援するにあたっての責任感がよくわかった。」(3年)
心理支援専門職の役割	「臨床心理士は5年ごとに資格を更新する義務がありとても厳しく、それだけ専門性が高いのだと改めて認識することが出来た。」(1年) 「資格を取ることは難しいと思った。他人の心理は何を考えているかわからないことが多いため心理職として働いている人はすごい。」(1年) 「大学院を出るとするのは、経済的な負担が大きい。公認心理師はこれからどんどん需要の出てくる職業なのではないかと思う。その分簡単になれてはいけなければならないけれど、多くの人が目指せるようになってほしいのと思った。」(3年) 「本気で覚悟を持って取り組まないと資格は取れずに中途半端に終わってしまうと思った。」(1年) 「臨床心理士は5年で更新しなければならず、こうして更新し続けることで信頼性を高く保つことができると思った。」(1年) 「なることが出来た後もさらに勉強を続けていくということなのでだんだんとレベルが上がり、より高度な問題も解決できる日が来るのではないかと考えた。」(1年) 「スクールカウンセラーは知っていたが、子育て支援や高齢者支援、犯罪被害者等支援など様々な人に対しての支援を行っていることを初めて知った。」(1年) 「公認心理師と臨床心理士の違いはあるのかということが気になったが大きな違いはないということが分かった。どちらも心のケアを行う専門家であり、短い期間で身につけることができない技術を必要としているためだと考えた。」(1年) 「臨床心理士は主に精神病理や重い神経症などを対象にカウンセリングなどを行っており、公認心理師は生きていく上でより健康に人々が暮らすために、比較的健康状態にある人も対象にカウンセリングなどを行っているといった違いがあるのだと考えた。」(1年) 「支援をする対象は幅広い。ということはそれだけ多くの人の力が必要なため、様々な機関や人と連携と協同をしているなと思った。また、支援をしたから終わりではなくそこから分析をして課題を発見して次に向けて反省をしていくの繰り返しだと思った。」(3年)

カテゴリ	記述例
	「どのホームページも地域と繋がりながら支援を行うことを重要視しているように感じた。」(3年) 「助言や援助だけでなく心の健康に関する教育や情報提供を行っている点が、現代社会にとって、とても必要なことだ。」(1年) 「あらゆる年代のクライアントのこころの健康を向上させるために必要な存在だと再認識した。」(1年) 「先人の功績や、授業をしてくださっている先生方のおかげで成り立っている。心理師への期待に応えられるような支援ができるように勉学に励もうと思う。」(3年) 「ほかの職業と比べて、やはりコミュニケーション能力が求められると感じた。」(3年) 「なることがゴールではなく、信頼されている分役割をしっかりと果たす必要があるなと感じた。」(3年) 「公認心理師になりたいと考えているため、試験について知らなかったこともたくさん知ることができてよかった。」(3年)

て頑張らなくてはならないと自覚し、目指してはいないという学生も「身近な存在と感じ」、関心に向けるようになったという感想もあった。資格取得は「簡単ではない」ということも述べられていた。

4 考察

本研究では、心理支援専門職関連組織のホームページを見た大学生276名の感想を分類整理した。ホームページの閲覧は、心理学を学ぶ大学生にとって有益な知識提供かつ関心の増強を図るものとなることが示された。

1年生対象の心理学科入門講義「スタートアップ・セミナー」と3年生対象の「公認心理師の職責」において2年間調査を実施したところ、学年による感想内容の違いは見られず、年度の違いが見られた。新型コロナウイルス感染症対策として遠隔授業が実施された2020年度は、1年生の授業における「心理支援専門職の役割」に関する感想が多く、対面授業が可能となった2021年度では「組織の活動」に関する感想が両授業ともに多いという結果だった。授業形態の違いがこの結果にどのように影響したのかは確認できないが、双方向的な授業において、それまで心理支援の仕事については様々な授業で学んでいても、心理支援専門職の「組織」についての予備知識は乏しかったことから新鮮な情報となったことも考えられる。

新型コロナウイルス感染症の蔓延している時期にあたり、そのための相談支援等の活動紹介に注目し、すばらしいと述べた感想は多かった。また、各組織による心理支援専門職の研修が行われていることは、将来の進路として心理支援専門職を視野に入れている大学生にとっての安心材料になったようである。これらのことから、大学生たちは自分や周りの人たちに心理支援専門職やその関連組織が何を提供してくれるのかという点を重視していると言える。

大学生がホームページ閲覧を通して学んだことは、次のように集約できる。

- 1) 心理支援専門職関連組織の存在と、それらの組

織が人々の心の健康維持増進を目標として社会への貢献活動をしていること、心理支援専門職に対する資質向上のための活動も熱心に行われていることを知ったこと。

- 2) 心理支援専門職の職域の多様性を知り、あらためてその重要性を認識し、関心が高まったこと。関連して、心理支援専門職になることは簡単ではないが、重要な役割を担っていることを再認識できたこと。

心理学科の講義や演習において、既存のホームページを教材として活用することの効果も確認できたと考える。

引用文献

- 森田美弥子（1997）学生相談室イメージと来談の関係．心理臨床学研究15， 406-415
- 緒賀郷志（2004）カウンセリング・イメージに関する研究(1)－学部講義による変化－，岐阜大学教育学部研究報告（人文学部）52， 1-4
- 坂本憲治・千島雄太（2018）カウンセリング・イメージの経年変化－教職課程の大学生を対象として－，カウンセリング研究51， 27-38

Perceptions of Clinical Psychologists among Undergraduate Students : An Analysis of Students' Views on Academic Associations' Websites

MORITA Miyako^{*1}

*1 Designated Professor, Department of Psychology, College of Humanities, Chubu University

Abstract

What are the perceptions of university students regarding professions in mental health? To investigate this question, the author conducted a survey with undergraduate students in their first and third year of study in 2020 and 2021. Participants were asked to explore one or more websites from a selection of eight websites belonging to organizations related to mental health professions. These included professional bodies for Certified Public Psychologists and Certified Clinical Psychologists, associations of educational institutions that train psychologists, related academic associations, and others. A total of 276 responses to the open-ended question were collected over the course of two years. These responses were divided into three broader categories of content: the aesthetics of the website, the activities carried out by the associations, and the roles played by mental health professionals. The findings show that undergraduate students generally perceive the websites as being both easy to navigate and aesthetically pleasing. Respondents also noted that obtaining certification is a challenging task. However, they acknowledge the diversity of professional careers within the mental health sector and their importance in today's society.

Key words

University student, Clinical psychologist, web-site